大津川のタンチョウについて

2026.10　日本野鳥の会大阪支部・納家（なや）　仁



1　タンチョウってどんな鳥

タンチョウ　ツル目ツル科　学名 *Grus japonensis*　英名 Red-crowned Crane

日本産鳥類中最大の水鳥　全長約 1.4m　翼を広げると 2.4m超　体重約 10 kg

[日本野鳥の会 － タンチョウ保護の取り組み](https://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/gj_hogo/)
https://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/gj_hogo/

特別天然記念物：1952 年に文化財保護法に基づき指定
国内希少野生動植物種：種の保存法に基づき、捕獲や譲渡が厳しく制限
ワシントン条約附属書Ⅰ：国際的な商業取引が原則禁止
環境省レッドリスト（2026.3.第 5 次改訂）：準絶滅危惧種
IUCN2025 レッドリスト：危急種（VU）
日露渡り鳥等保護条約、日中渡り鳥等保護条約での保護対象種

絶滅の危機からの復活劇

明治期の乱獲により一時は絶滅したと考えられていましたが、1924 年に北海道釧路地方で十数羽が再発見されました。地元住民や小学校による冬場のトウモロコシ給餌活動が成功し、個体数が劇的に回復しました。現在、北海道内にはおよそ 2000 羽程度が生息していると推定されています。

環境省レッドリスト（2026 年 3 月、第 5 次改訂）では、絶滅危惧 II 類（VU）から準絶滅危惧（NT）にランクが下がりました。

[日本野鳥の会 － 環境省レッドリストでタンチョウが絶滅危惧種から脱しました](https://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/gj_hogo/gj-news-20260317/)
https://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/gj_hogo/gj-news-20260317/

2　このタンチョウはいつどこから来たのか

大津川で確認されたのは 2026 年 7 月 18 日（土）、その日以降、中州の草地でカニを捕食したり、夜は川の中でねぐらをとるなどして暑い大阪の夏を過ごしていました。

このタンチョウは翼などの特徴（初列風切羽根の先端部や初列雨覆の先端部に黒色斑が見られること）から 3 年目の若い個体であると判断できます。

このタンチョウは和歌山県で 5 月から 6 月下旬に確認されていたものと同一個体です。和歌山では、5 月 4 日に白浜町椿で確認され、翌日にはいなくなりましたが、5 月下旬に富田川で確認されるようになり、6 月 10 日頃から 13 日まで田辺市の会津川で確認され、その後また富田川に戻っていました。6 月下旬に美浜町和田不毛で確認されましたが、数日でいなくなりました。大津川で確認されるまでの間の消息については不明ですが、和歌山県内を徐々に北上して大津川に渡来したものと考えられます。

北海道のタンチョウは留鳥で渡りをしないことから、おそらく大陸の個体群（モンゴル東北部からアムール、ウスリー、中国東北部にかけて繁殖し、朝鮮半島や中国東部で越冬）の 1 羽が、北上する際に迷行してきたのではないかと考えられます。

※外見上、北海道の個体と大陸の個体の区別はできません。

大津川では、クロベンケイガニなどをよく捕食していますが、大陸産のタンチョウも渡りの中継地や越冬地として干潟環境を利用し、カニを主食としていることが知られています。



手前はコサギ　タンチョウの大きさがよく分かる

3　タンチョウのこれからに注目

大津川で夏を過ごしていたタンチョウは、８月 24 日に河川敷での大規模な草刈作業に驚き、大津川を離れ行方不明となりました。８月 31 日に約 10km 北の堺第 7-3 区埋立地で再確認でき、その後も 9 月から 10 月 1 日にかけ同地で確認でき、大津川では、その間では確認できずにいました。堺第 7-3 区では草地で昆虫類を中心に採餌しているのが観察できました。

10 月 3 日午後、大津川に一月余りぶりにタンチョウが戻ってきました。大津川では、またクロベンケイガニを食べて過ごしています。以前と同様に夜は川の中で寝ている姿も見られています。今後、カニが越冬に入り食べ物が不足してくることが予想されます。タンチョウのこれからに目が離せません。

大津川のタンチョウ　愛称を「おづたん」に！　戻ってきたタンチョウの愛称を考えました。大津川のタンチョウということで「おづたん」に。皆さんも親しみを込めて「おづたん」をやさしく見守ってください。





草地でカニをよく捕食する



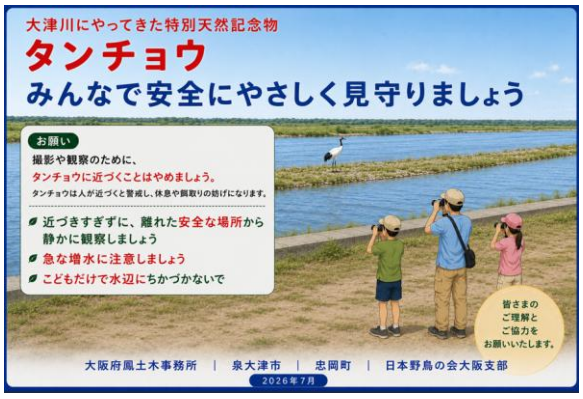
大きい鳥（立ち姿は 150 ㎝）なので遠くからでもよく目立つ



タンチョウという名は丹頂から。「丹」は赤色、「頂」は頭のてっぺんを意味し、頭頂部の皮膚が露出して赤く見える特徴からこの名前がつけられました。一般には丹頂鶴と呼ばれることが多いですが、正式な和名には鶴はつかず「タンチョウ」となります。
私たちに身近な大津川に飛来して、滞在中のタンチョウ、多くの市民、町民、府民の方にもその存在を知っていただき、タンチョウの素晴らしさ、美しさに触れ、野鳥や生き物の命をはぐくむ大津川の自然にも関心を向けていただければと願っています。

■読売新聞による報道　※読売新聞オンラインで記事の閲覧が可能です　「タンチョウ、読売新聞」で検索
・全国版 1 面　8/1（土）夕刊　大陸のタンチョウ、誤って大阪に渡ってきた？
・大阪　8/7（金）朝刊　タンチョウ　大津川に飛来　撮影・観察マナー守って
・大阪　9/18（金）朝刊　ＳＮＳで話題・大阪に飛来のタンチョウが飛び去る…音に敏感で除草の機械音に驚く？
・大阪　9/29（火）朝刊　タンチョウ堺で見つかる　立ち入り禁止区域　野鳥の会「見守りたい」

■遠くからやさしく見守りましょう
河川管理者の大阪府、関係市町である泉大津市、忠岡町、日本野鳥の会大阪支部との連名で皆さんに観察や撮影マナーについての呼びかけを行っています（右図）。
今回のタンチョウは、若い鳥であるせいか、あまり人を恐れませんが、スマホで撮影しようと河川敷を越えて近づくようなことは絶対にしないでください。またバイクなどの騒音には非常に敏感に反応します。大きな物音を立てたりすることはやめましょう。みんなで静かに見守りましょう。



■大津川の自然を守ろう
大津川では、これまで 146 種もの野鳥が記録されています。タンチョウだけに目がいきがちですが、大津川は多くの渡り鳥の中継地や越冬地となっています。身近な大津川の自然をもっと知って、守っていきましょう。

■大津川自然観察会に参加しませんか　毎月第 2 日曜日に開催　午前 10 時～12 時 30 分　参加費無料
集合場所は左岸（忠岡町側）の「河口部から 1.1km」の表示ポスト付近　川沿いに河口に向かって進み、忠岡漁港を抜け、河口の小さな浜まで往復し、野鳥を観察します。　問合せ先：納家（なや）TEL 090-1139-8901